

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

データ駆動科学教育研究センター運営委員会

(責任者名) 大澤 聡子

(役職名) 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等																																
学内からの視点	<p>令和6年度の当該プログラムの履修者、修了者について下記に示す。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">《リテラシーレベル》 科目名</th> <th style="text-align: center;">対象学生数</th> <th style="text-align: center;">履修者数(修了者数)</th> <th style="text-align: center;">比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>---</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>「データサイエンス概論」 (96.9%) ※ただし、前年度までに未履修だった6名を含む。</td> <td style="text-align: center;">159名</td> <td style="text-align: center;">159名(154名)</td> <td style="text-align: center;">100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">《応用基礎レベル》 科目名</th> <th style="text-align: center;">対象学生数</th> <th style="text-align: center;">履修者数(修了者数)</th> <th style="text-align: center;">比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>---</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>「データ科学基礎演習A(前期)」 (3.2%)</td> <td style="text-align: center;">153名</td> <td style="text-align: center;">16名(5名)</td> <td style="text-align: center;">10.3%</td> </tr> <tr> <td>「データ科学基礎演習A(後期)」 (3.2%)</td> <td style="text-align: center;">153名</td> <td style="text-align: center;">17名(5名)</td> <td style="text-align: center;">10.9%</td> </tr> <tr> <td>「データ科学基礎演習B」</td> <td style="text-align: center;">153名</td> <td style="text-align: center;">5名(3名)</td> <td style="text-align: center;">3.2%(1.9%)</td> </tr> </tbody> </table>	《リテラシーレベル》 科目名	対象学生数	履修者数(修了者数)	比率	---				「データサイエンス概論」 (96.9%) ※ただし、前年度までに未履修だった6名を含む。	159名	159名(154名)	100%	《応用基礎レベル》 科目名	対象学生数	履修者数(修了者数)	比率	---				「データ科学基礎演習A(前期)」 (3.2%)	153名	16名(5名)	10.3%	「データ科学基礎演習A(後期)」 (3.2%)	153名	17名(5名)	10.9%	「データ科学基礎演習B」	153名	5名(3名)	3.2%(1.9%)
《リテラシーレベル》 科目名	対象学生数	履修者数(修了者数)	比率																														

「データサイエンス概論」 (96.9%) ※ただし、前年度までに未履修だった6名を含む。	159名	159名(154名)	100%																														
《応用基礎レベル》 科目名	対象学生数	履修者数(修了者数)	比率																														

「データ科学基礎演習A(前期)」 (3.2%)	153名	16名(5名)	10.3%																														
「データ科学基礎演習A(後期)」 (3.2%)	153名	17名(5名)	10.9%																														
「データ科学基礎演習B」	153名	5名(3名)	3.2%(1.9%)																														
学修成果	<p>《リテラシーレベル》 令和6年度に本学全学科で実施したカリキュラム再編により、本教育プログラム(リテラシーレベル)の申請科目「データサイエンス概論」は、全ての学科で必修となり、全学生が卒業までに必ず履修することとなっている。</p> <p>《応用基礎レベル》 本教育プログラム(応用基礎レベル)の申請科目「データサイエンス概論」「情報リテラシー」「情報・統計処理」も、全学科で必修としており、全学生が卒業までに必ず履修することになる。なお、「情報・統計処理」では、「データサイエンス概論」で学んだことを演習形式で定着させ、「データ科学基礎演習A」「データ科学基礎演習B」につなげる狙いがある。</p>																																
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>《リテラシーレベル》・《応用基礎レベル》 本プログラムを含む、すべての授業を対象とした学生アンケートを実施し、学生による授業評価・理解度等について把握している。学生アンケートの結果は、印刷物を図書館等に設置し、全学生ならびに全教職員に周知している。 また、「データ科学基礎演習A」ならびに「データ科学基礎演習B」については、地域活性化人材育成事業(SPARC-GIFU)の連携開設科目として、事業責任大学の岐阜大学から提供を受け実施している科目となっている。岐阜大学のデータ科学基礎担当教員とデータ駆動科学教育研究センターに所属する教員とで、学生アンケートを含めた学生の理解度についての分析を行い、その結果を岐阜大学教育推進・学生支援機構年報に実践報告として公表を予定している。</p>																																
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>《リテラシーレベル》 本教育プログラム(リテラシーレベル)の申請科目「データサイエンス概論」と、本教育プログラム(応用基礎レベル)の申請科目「情報・統計処理」については、カリキュラム上、全学科の学生において必修科目としており、後輩への推奨度は明示的な調査をしていない。</p> <p>《応用基礎レベル》 「データ科学基礎演習A」ならびに「データ科学基礎演習B」については、事後の授業アンケートの設問や自由記述式のコメントから、難易度は高いが後輩等にも受講を推奨できると評価している受講者が比較的多いことを確認している。</p>																																
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>《リテラシーレベル》 本教育プログラム(リテラシーレベル)については、既に全学科必修科目としており、履修者数・履修率は卒業までに100%となる。</p> <p>《応用基礎レベル》 本教育プログラム(応用基礎レベル)については、選択科目ということもあり、履修者数・履修率は低い。また、地域活性化人材育成事業(SPARC-GIFU)の連携開設科目の科目として、岐阜大学から提供をうけている「データ科学基礎演習A」「データ科学基礎演習B」については、オンデマンド開講としているが、学内においても週に1回、サポート時間を学生に明示する等して学生が履修しやすい環境を整備し、学生の修了率向上を目指している。</p>																																

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>《リテラシーレベル》・《応用基礎レベル》</p> <p>本学では、各学科において卒業時に就職先の調査を行っている。また、近隣の関連企業（就職実績があり、継続して採用計画のある企業など）に対しては、企業訪問を実施している。その際、本教育プログラムの実施について説明し、修了証の発行などの取り組みについて評価していただいていることを確認している。今後も、本プログラムの修了者について状況把握を行う予定である。</p> <p>《リテラシーレベル》・《応用基礎レベル》</p> <p>本学では自己点検報告書に基づき、定期的に外部評価委員の方の現地調査を受けている。また、外部評価とは別に、令和2年12月には本学運営委員会の外部有識者を含む意見も踏まえ、令和2年12月には「岐阜市立女子短期大学ビジョン」として、短・中長期計画を発表している。本プログラムは、この「岐阜市立女子短期大学ビジョン」に同調し計画されたものである。また、このビジョンを実現すべく「データ駆動科学教育研究センター」を令和5年1月に設置した。データ駆動科学教育研究センターを主体として、今後も継続的に産業界等からの本プログラムの内容・手法について意見聴取を行っていく。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>《リテラシーレベル》・《応用基礎レベル》</p> <p>分野を問わず幅広い関心を育むため、実社会でAIがどのように活用されているか先進的な事例を紹介し、学ぶ楽しさを喚起する工夫をしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>《リテラシーレベル》・《応用基礎レベル》</p> <p>本教育プログラム申請科目「データサイエンス概論」「情報リテラシー」「情報・統計処理」は、データ駆動科学教育研究センターに所属の教員が担当することで、全学的な数理・データサイエンス・AI教育のノウハウを貯蓄し、同教育分野の発展に寄与していく。また、これまで通り、学生による授業評価等から学生の理解度等を把握、分析し、授業改善につなげていく。</p> <p>応用基礎レベルのコアとなる科目となる「データ科学基礎演習A」ならびに「データ科学基礎演習B」については、地域活性化人材育成事業（SPARC-GIFU）の連携開設科目として、事業責任大学の岐阜大学から提供を受け実施している科目となっている。岐阜大学のLMSを活用した、オンデマンド形式での開講となっており、受講生はなれないICTツールでの受講となる。そのため、データ駆動科学教育研究センター所属の教員が週に1回、サポート時間を設けて本学学内できめ細かな学習サポートを行う体制と構築し、体制を強化し「分かりやすい」授業となるような体制を構築している。</p>